

ヤマコンがメガソーラーに進出

田名部組と共同出資「はちのへプロジェクト」が始動

編集部



折場沢・北ノ沢の2発電所の空撮写真

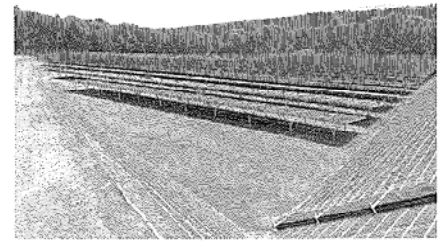
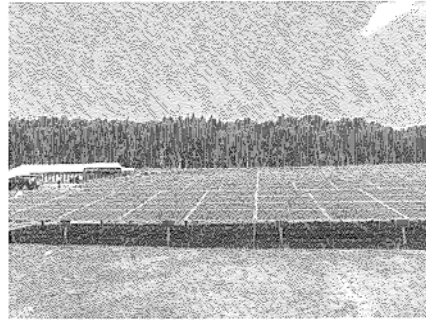
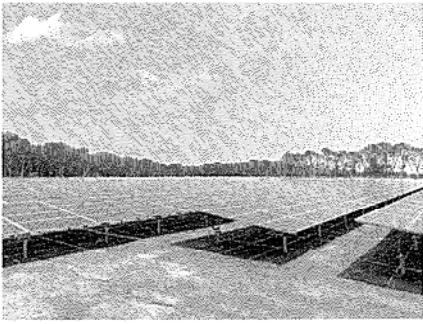
ヤマコン（本社・山形市、佐藤隆彦社長）と田名部組（八戸市、田名部智之社長）が共同出資する合同会社「はちのへプロジェクト」が運営するメガソーラー発電所が2サイトに竣工し、7月1日から東北電力への売電を開始した。両社は同月21日、工事関係者とともに現地で火入れ式を執り行い三嶋神社の神主が齋主をつとめた。

2サイトで4.9MW発電

合同会社はヤマコンが80%、田名部組は20%出資し

て設立。総事業費は14億5,000万円で、発電容量は4.9MW。山間部に位置する事業用地は八戸工業大学から賃借し、北側の折場沢太陽光発電所（発電容量は約2,483kW）と南側の北ノ沢太陽光発電所の2サイトを建設。315W多結晶シリコンのパネルを合計で約1万5,800枚設置した。約1,400世帯分を発電し、売電により年間1億7,000万円の売り上げを見込む。

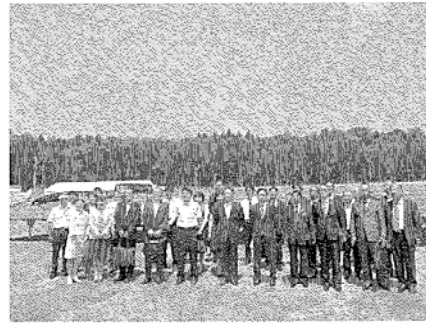
ヤマコンは本業を補完する事業として国のFIT（固定価格買い取り制度）がスタートした初年度から、太陽光発電の事業化に着手し、2013年1月に石巻営業所



太陽光パネル



竣工修祓式（火入れ式）を開催



現地に関係者が集合



和やかに竣工式も併催

倉庫屋根に20kWの低圧発電所を設けて実証試験を行った上で、同年8月に山形本社倉庫屋根に300kW、14年には関東の自社遊休地2カ所に合わせて360kWの野立て発電所を稼働させた。これまでに8カ所（1.8MW）の太陽光発電所を稼働させているが、メガソーラーは今回が初めて。2016年1月に三井住友銀行が同プロジェクトを仲介し、当初から計画していた田名部組とともにプロジェクトに参画することになった。田名部社長は10年来の旧知の仲で、経営コンサルタントが主催する勉強会のメンバーとして切磋琢磨している仲間だった。

太陽光パネル1万6,000枚が整然と並ぶ

神事のあと、会場を八戸パークホテルに移して竣工式を開催。冒頭、施主として佐藤社長が登壇し「関係者と検討を重ね、着工まで1年かかった。その後、5カ月で竣工できた。1万6,000枚弱の太陽光パネルが整然と並び、敷地全体がきれいに造成され、発電所全体の完成度の高さに大変満足している。太平洋を望む雄大な自然環境に溶け込み、三角形を2つ組み合わせたような、例えるならば大きな砂時計のようなシンボ

リックな発電所の形に感動した」と述べ、感謝した。

次いで来賓を代表して三井住友銀行の草沢哲也東北法人営業部次長とみちのく銀行の堰合弘樹八戸法人部法人営業課次長、東京共同会計事務所の北川久芳アドバイザリーグループ・マネージャーが祝辞を述べたあと、田名部社長が乾杯を首唱し、和やかな懇談が続いた。

施主あいさつ（佐藤隆彦社長）

1月24日に地鎮祭を執り行い、厳冬期の建設工事にも関わらず、工事関係者の皆様の努力によって、工期通り6月末に無事完成することができた。これから20年の時を着実に刻み、事業が順調に進むことを暗示していると確信した。このプロジェクトのため、素晴らしい土地を提供頂いた八戸工業大学のご厚意に、あらためて感謝申し上げる。

6月にトランプ大統領が離脱を表明し大きな問題になったパリ協定では、新興国を含む多くの国が地球温暖化を防ぐため、21世紀後半までに、温室効果ガスの排出をゼロにする目標を採択している。実質的に化石